

第 26 期横浜市スポーツ推進審議会第4回会議 会議録

日 時	令和6年8月9日(金)18時00分～19時45分
開催場所	横浜市役所 18階 なみき2～5会議室
出席者	山口会長、大日方副会長、石黒委員、石塚委員、小熊委員、小田委員、鈴木委員、平井委員、藤委員、矢島委員、依田委員(計11名)
欠席者	林田委員、結城委員(計2名)
開催形態	公開(傍聴者なし)
議題等	1 議題 令和5年度横浜市スポーツ推進計画の進捗状況 2 その他
開 会	開会、定足数確認、にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興部担当部長あいさつ
議 事	<p><u>議題 令和5年度横浜市スポーツ推進計画の進捗状況</u></p> <p><資料に基づき事務局から説明></p> <p>(山口会長)</p> <p>ただいま事務局から説明のあった内容についてご質問やご意見を頂戴したいと思います。</p> <p>(鈴木委員)</p> <p>今回、オリンピックで初めて選手村に託児所のサービスができたというニュースを聞いて、すばらしいアイデアだと思いました。自分自身が今まで現役でプレーしていた時は、ラグビーを一人で楽しんでいましたが、昨年に娘を出産してからは、スポーツシーンに子どもや家族で行くとなると、託児所等がないと厳しいのが現状です。スポーツシチュエーション、スポーツシーン、大会などでは、託児所はあつたりなかつたりというのが現状ですが、そういった中で、今後、大きい大会などに、民間と連動した託児所ができていくと、女性が参加しやすくなるのではないかといった意味で、すごくすばらしい取組だと思いました。</p> <p>(石黒委員)</p> <p>質問させていただきたいのですが、取組 19 の課題で、本牧市民プールのプール期以外の集客の強化ということがありますが、具体的にどういうものがあるのか教えてください。</p> <p>(事務局)</p> <p>サップやカヤックの体験会など、プール期以外も楽しんでいただける取組を現在進めています。</p> <p>(石黒委員)</p> <p>計画中ですか。</p> <p>(事務局)</p> <p>試行的ですが、6月にサップ教室の取組を行いました。2日間で十数名の方たちに楽しかったという評価を頂いていますので、プール期以外も続けていきたいと考えています。</p> <p>(石黒委員)</p> <p>これはすべて屋外のプールですか。</p> <p>(事務局)</p> <p>はい。</p>

(石黒委員)

メインの利用以外の活用ということも非常に有用なことだと思います。ほかの自治体の模範となるような取組をぜひ進めていただければと思います。

取組全体についてですが、各種取組を通して、各種目標値を達成していこうということだと思いますが、どの取組を行った結果どの目標値が上がったか、明確な因果関係というのはなかなか難しいのですが、ぜひこの目標値を意識しながら取組を進めていただけるといいのではないかと感じました。

もう一点、スポーツ庁の実施率調査に少し関わっているのですが、今話題に出てきているのが、これからは質の部分の重要度がどんどん増してくるのではないかとことです。もちろん週1回以上スポーツをする人を増やすのも大事ですが、やりたいのにできない人を減らすことや、あるいは、今は週1回やっているが、本当は週3回やりたい人などのニーズを細かく見ていき、より市民の皆さんがスポーツを通じたウェルビーイングを実現できるよう、各種取組を進めていただけると良いと思いました。

(石塚委員)

主な進捗状況の目標1ですが、取組4の部活動の地域移行は、今年度から総合型地域スポーツクラブまで広がっていることで、多様な受皿の創出に着手しているとイメージしました。その中で、課題にあるように、取組4の2行目に、地域移行の複数モデルがあると思います。政令市の広いエリアで行うときには、総合型地域スポーツクラブだけでやっていくのはなかなか難しいと思いますので、例えば近隣に大学があるところでは大学との連携や、民間企業との連携もモデルケースとして考えて良いのではないかと感じました。

さらに、横浜市はプロスポーツチームがたくさんあると思いますので、そういったところとの連携や、部活動の地域移行を契機に、専門的にやりたい生徒さんだけでなく、緩やかにスポーツをしたいとか文化活動をしたいという方もいると思うので、そういった体験の機会の創出という意味合いでは、ショッピングモールなど、身近な環境でできる場所も整備していくと良いと感じています。

逆に、課題の取組4のところにあるように、民間の他の団体の人材を当てにするだけでなく、研修の質の向上のところでも、民間企業の持つノウハウを活用できると、地域移行の課題の部分も少し加速するのではないかと感じています。

(小熊委員)

働く世代・子育て世代のスポーツ実施率は大分低いとのことで、これは健康増進の方でもよく話題になっています。健康増進の今後の取組の方向性として、成人のスポーツ実施率向上に向けて、気軽にスポーツを楽しめるイベント等の開催と書いていますが、民間企業と連携したスポーツイベントや、平日、企業と仕事の中でできるようなスポーツもあるのではないかなと思います。私たちが調査をしていますが、やはり時間がないとのことで、平日は、働いている中でできるようなことを民間企業と考えると良いかもしれないと思いました。

あと、子どもと一緒に参加しつつ親も楽しめるイベントや、子どもを預けて自分の時間としてスポーツを楽しむイベントなど、いろいろな取組を今後の方向性として考え、その中でよいものを続け

ていただけると良いと思いました。それから、イベントだけでなく、それが日常になるような仕組みをつくっていけると良いと思いました。

(小田委員)

週1回のスポーツ実施率は、長年委員をさせていただきましたけれども、いつも同じ切り口、同じような対策ということで、もうちょっと具体的に切り込んでいくことは難しいでしょうか。今年はこちらをやってみて、それが数字に出るといのはすごく難しい話だと思いますが、もう少しそこを積極的に行っていただけると良いと思います。確かに仕事をされている方が週2回、3回運動をしているのは現実的に難しいのではないかと思いますので、少なくとも週1回というところ。週1回が健康に良いかどうかという疑問点もあるようですが、そこから入っていかないと先へ進めない気がしますので、もう少し具体的な策をつくっていただきたいです。

その中で、どうしても機会をつくりましょつかイベントをつくりましょつという話が非常に増えています。確かにイベントをつくるというのは我々もよくやりますし、すごく必要なのですが、やはり動ける場所をつくってあげる。その場所の中で体を動かしやすい仕組みをつくってあげるというのも大事ではないかと思います。具体的に言うと、他の県でも時々見ますが、スポーツ公園という形で公園の中で体を動かせる、または何か遊びができる仕組みを作っている地方自治体も見られるので、もう少しそういうところにも目をむけていただければありがたいと思いました。

(大日方委員)

取組 11 について、1 つ質問させていただきたいと思います。課題の中で、競技団体による自立的な事業実施の展開が課題であるとか、新たな競技団体と連携していくとのことなのですが、このあたりがどういう競技団体と何をしていくのか、伺ってもよろしいですか。

(事務局)

現在事業実施しているのが、水泳と陸上とバトンとボウリングです。スキーは雪が少なかったことで実施できなかったため、今年度は4団体となります。

もともと競技団体が障害者を含めた形での取組を行っていなかったもので、横浜スポーツ協会とラポールにご協力いただき、競技団体と連携しながら、障害のある方もない方も一緒にできるような競技大会だったり体験会だったりというのを実施し、今後、そのノウハウを蓄積して、継続的に各競技団体に実施していただくというのが課題だと思っています。

(大日方委員)

この事業の目的、ゴールというものが何なのかがはっきりしないと、続けていっても持続的なものにはならず、いわゆるノウハウの取得にはならないということが課題として見えてきていると思いました。イベントをやることで何を得的なのか、そこは少し気をつけたほうが良いと思いました。

イベントや体験会の実施が取組として増えています。イベントや体験会だけをやっても、それ以降繋がらないことがあるので、市としてやるのであれば、ゴール設定をする必要があるかと思えます。

また、場の創出というのがすごく大切になるので、例えば共生社会の実現といった時に、アクセスできる場所がどれだけあるのかといったところが、目標値であったり取組といっ

たところにあまり見えてこないという課題があると思います。取組の設定の仕方が来期以降の軸になってくると思います。

(平井委員)

私どもスポーツ推進委員は、市民の皆様によりスポーツを体験してもらい、楽しんでもらうためにイベント等を実施しています。緑区で毎年実施しているのですが、今回、3世代にわたって、専門的なスポーツからレクリエーション的なスポーツを楽しんでいただくというイベントを、人数制限をかけないで実施しました。

ただ、今までは小学校、幼稚園、保育園のお子さんたちに案内を配架していたのですが、このところは小学校が働き方改革で、紙ではなくデータで配付しなければならないということで、学校にデータを送って、そこから子供ではなく親御さんに送りました。結局、親御さんが子供たちに伝えないと、こういうイベントがあるというのが分からない状況で、今回は 1000 人近く参加者を予定していたのですが、半分の 500 名程度でした。その内訳がほとんど幼稚園のお子さんと、保育園のお子さんと、おじいちゃんおばあちゃんから親御さんでした。小学校には紙で配架ができなかったのも、その影響がやはり大きかったのではないかと思います。

先ほど矢島委員と話しましたが、子供たちはタブレットを持っているので、我々からデータを送って、学校から子供たちのタブレットに送るのは可能とのことなので、校長会等に働きかけていきたいと思っています。

先日、小学校の放課後キッズクラブから、子供たちが夏休みにかけて何か体を動かすような遊具みたいなものがないかとご質問をいただきました。緑区にはいろいろな遊具があります。カーリングの代わりに体育館の床でやるカローリングとか、ポッチャは当然ですし、あと、今は暑いですが、グラウンドゴルフがあります。学校の敷地で、きちんとしたコースではなくて、上級生にコースを考えてもらいみんなでやります。その時に私どもが行って、先生方に遊具の遊び方を教えて、子供たちと一緒にやります。

それ以外にも障害者施設で、特にグループホームは休日ですとなかなか体を動かすものがなく、ホームの中でできるような遊具も貸し出しているのも、今後、18 区に広げていければと思っています。

(矢島委員)

先ほどの平井委員の話ですが、プリント等の配布がなぜ駄目だったのかは分かりませんが、保護者に送るのであるなら、学校がデータを一齐に送ることは可能なので、ぜひまたそういう方法で広めていただくと良いかと思います。

私は小学校の体育研究会でやらせていただいており、この取組を見ていくと、スポーツ推進計画の指標と目標値で、多様な人と関わり、運動・スポーツを楽しみたいと思う子供の割合が目標値を達成しています。子供たちはいろいろなスポーツに関わりたいという思いを持っているのが事実です。ただ、小学校体育研究会は毎年、全児童対象にいくつかの体育の種目の調査をしていますが、コロナが明けてから明らかに体力が減少している事実があります。なので、学校も体育としていろいろと取組を進めていきたいと思っていますが、スポーツに関わりたいと思っている子供たちが実際に関わられるような取組を推進していただくとありがたいと思います。

子供の週3回以上のスポーツ実施率は、どちらかというと中学校の部活の子たちのデータが大

きくなってしまっているのではと思っています。小学生の子供たちも学校以外、授業以外の体を動かすという機会を持てるようなものを横浜市として取り組んでいただけるとありがたいと感じました。

目標2の「方向性」の「取組 11、12」のインクルーシブスポーツの体験交流会は、私も非常に気になっております。特に今年は、この後パラリンピックも行われますので、子供たちが色々なパラスポーツを目にすることができます。将来に向けて、今後、自分たちがどのような社会をつくっていくかというスタートになると思います。今年度もいくつかの学校が各区で取り組ませてもらっていますが、ぜひ積極的に取組を増やしていただけるとありがたいです。

目標3の「方向性」の、トップアスリートの競技を観戦できる機会について、やはり本物体験というのは、特に小学生の子供たちは目がきらきら輝きます。大規模スポーツイベントではなくても、例えば横浜市にはいろいろなプロスポーツ等があると思いますので、そういうところに子供たちが参加できるような取組等を進めていただけると、非常に子供たちの夢が広がっていくと感じます。

最後に、昨年度も少しこの場でお話しさせてもらったのですが、小学校体育研究会が共生社会の実現に向けて、オリ・パラスポーツフェスティバルを年に1回取り組んでいます。昨年度もにぎわいスポーツ文化局の方に見に来ていただきました。ボッチャ協会、フライングディスク協会、横浜ラポールなど、いろいろな団体の協力を得ています。昨年度は横浜ラポールさんから車いすバスケットボールの方にも来てもらいました。ブラインドサッカーはブエンカンピオというチームがあるので、その方々に協力を得ながらやらせてもらっています。サウンドテーブルテニスも、盲特別支援学校からノウハウを伺って、手作りのサウンドテーブルテニスの卓球台を使い、子供たちが体験しています。小学校体育研究会が主催でやっておりまして、今年度も11月30日に横浜国際プールで行います。

横浜国際プールが今度どうなっていくかという話がこの後またあると思いますが、小学校体育研究会という一つの競技研究会でやっていくのが今非常に厳しい状況になっています。教育委員会と一緒に共催でやっていただけないかをお願いしているところですが、子供たちにとっては非常にすばらしい体験です。参加は大体250から300ぐらいですが、5つの競技を体験すると、子供たちからは、楽しかった、ぜひまたやってみたい、今後学校でもやってみたいという声が多々出ます。ぜひ共催しながらやっていけると、私たちもありがたいと思いますので、ご協力いただければと思います。

(事務局)

小学生の体験の場、インクルーシブについて、今年は昨年度から強化したところがありますので、説明させていただきます。

先ほどお話のありましたパラスポーツの体験について、東京2020大会に向けて体験授業をやってきましたが、どうしても大会後にその機会が減少している傾向にありました。そこで、日本財団パラスポーツサポートセンターにご相談し、パラスポーツサポートセンターから提供いただけるプログラムを、体験型とワークショップ型の授業という形で、多くの学校で開催できるような仕組みを今年度は取らせていただいております。今年度実施した学校については、6月から始まったばかりですが、年間を通して今、90校弱の学校や教育委員会と連携して、プログラムを展開している最中です。また、令和7年度についても同様に、そういった取組を展開していけるように引き続き進めていきたいと思っています。

これまでは年間で18校ぐらいしか実施できておらず、すべての小学校を回り切れないうちに子供たちが卒業してしまうようなことがありました。それを今は約100校、5倍ぐらいに引き上げ、実際にパラアスリートの方に触れ合う場をつくっています。今まではどちらかというと、パラアスリートの方々の経験をお話いただくことだけだったのですが、今回のこのプログラムは、例えば障害のある方と一緒に鬼ごっこをするためにはどんなルールを考えればいだろうかというようなことをワークショップで考えて、実際にそれをみんなで体験することで、インクルーシブな状態とはどういうことなんだろうということを考えていただけるようなカリキュラムになっています。数もそうですが、質的にも参加型であったり、インクルーシブの状態をつくるとはどういうことなのかということを考えるプロセスを入れさせていただきました。ぜひ多くの小学校の方々にご参画いただいて、より多くの横浜の子供たちにこうした経験をしていただきたいので、来年も、できるだけ数を増やしていきたいと思っています。

(依田委員)

多様な人との関わり、運動・スポーツを楽しみたいと思う子供の割合が高かったということで、第3期スポーツ基本計画を見ていきますと、生涯にわたって運動・スポーツを継続したいと考えている子供が児童で90%、生徒で90%を目指すところが国から出ています。また、子供の体力向上の体力測定結果C以上というのが児童で80%、生徒で85%と出ているのですが、横浜市では指標として見えていますか。

それから、実施率等があまりにも下がり方が大き過ぎて、調査会社が変わっただけでこんなに変わってしまうと、データの信憑性が心配なので、今年の結果次第で検討されたほうがいいのか。

よこはまウォーキングポイント事業について、働いている方々はなかなか運動・スポーツができない中、ポイントを貯めるために歩くというこの事業については、すごいなと思ったのですが、今は歩数計ではなくてアプリが必要かと思います。いろいろなところがアプリ事業でやっているの、うまく連携できれば、働く世代の人たちが、通勤・通学で働きながら歩いている歩数もポイントになってくるとスポーツした気になりますし、ちょっと多く歩くようになる気がしますので、ぜひ検討していただけたらと思います。

(事務局)

子供の体力テストは毎年、教育委員会で実施しており、国と同じ基準です。そちらは教育委員会で公表させていただいています。ただ、意識に関する調査は、全てが国の指標と同じではない状況です。また、調査の精度の話は、しっかり分析させていただき、どういった手法での調査がいいのか考えていきたいと思っています。

ウォーキングポイントについては、今、アプリへの移行を促しながら実施していると健康福祉局から聞いています。よい取組と思っていますので、歩数計の本体代を無料で配って活用いただきつつ、アプリへの移行促進を、市全体として取り組んでいくべきと思っています。

その他 横浜国際プール再整備事業計画(素案)

<資料に基づき事務局から説明>

(平井委員)

6年度から10年度の間には工事を始めるということですか。

(事務局)

どのような形で工事を実施するかによって年度が変わります。また、6年度から10年度までずっと工事という話ではなく、発注準備、業者が決まって設計・工事が6年度から10年度ぐらいと思っています。

(平井委員)

今の指定管理の期間はどれくらい残っていますか。

(事務局)

8年度末までです。資料の31ページにより詳しく再整備計画のスケジュールが書いてあります。実際、6年度から動き始めましても、工事に入るまでに、こなさなければならない手順がたくさんあります。その間は休館せず現状を維持します。設計が終わって工事がいつぐらいから、というのは事業者の提案内容により違います。

(山口会長)

北山田駅からのアクセスの改善は、どのような可能性がありますか。

(事務局)

地域の方からは、エスカレーターやエレベーターのようなものがあると良いというようなご意見をいただいています。現状だとベビーカーも押せないような状況ですので、この計画に合わせてどのような改善ができるのか、課題認識を持って結論を出していければと思います。

(小田委員)

事業手法で、PFIやRO方式などの意味を教えてください。

(事務局)

PFIというのは通常の公共発注のように入札して一括でお金を払うのではなく、民間の方に整備資金を調達していただいて、負担いただく。それを契約期間の間でローンのように私たちが分割してサービス料としてお支払いしていくことで、財政負担を一時的に負担するのではなく、例えば15年とか20年とか、分割払いし、財政負担を平準化していこうということです。

ROというのは今回新しく建てるのではなく、施設を修繕する形になりますので、民間の資金でリノベーションしていただいた後、その代わりに、その契約期間についてオペレーションをしていただきます。整備した人が一定期間、指定管理の形で運営を担っていただくことで、実際に整備する人が、運営者の視点で運営をするので、効率的な視点を持って改修していただけるというのが一つメリットになります。指定管理の場合ですと、役所がこういった形でリノベーションしてくださいと言ったものに対して、指定管理側が合わせて努力する形になるのですが、最初から運営者の目線でリノベーションをすることで、無駄がない、より使いやすい施設になるというのが一つの特徴です。

(小田委員)

横浜 BUNTAI も同じような方式ということでしょうか。

(事務局)

横浜 BUNTAI については、同じPFIの中でもBTOということで、Bというのは Build で、建物を

建て、その所有権を Transfer、横浜市側に寄贈し、Operation する。建てるのかりノバージョンするのかの違いはありますが、基本的にその後はサービス料と指定管理の料金と合わせて分割してお支払いしていくという形は変わりません。

(小田委員)

横浜 BUNTAI は年間 20 億円ぐらいかかっていると思いますが、それと同じ方式で運営するということでしょうか。

(事務局)

指定管理料プラス整備費用を、契約期間で分割した金額を1年ずつ払っていくようなイメージになります。

(石黒委員)

1か月前あたりからメディアにも出ている話題で、スポーツを通じた共生社会の実現というのが計画の目標の3つのうちの1つとして入っている中で、パラ水泳の聖地と言われている国際プールメインプールがなくなることだけ出てしまったので、水泳関係者も驚かされているだろうと改めて感じたところです。これから丁寧な対話が必要ではないかと感じました。

仮に、今計画に出されているメインアリーナの通年フロア化ということを考えてときに、いくつか大事な視点があると思っています。恐らく通年フロア化したら、今、横浜ビー・コルセアーズが年間 25 試合使われると思いますが、残りの 300 何日を何に使うのか。その部分の計画をよく考えないと、せっかく収益性が上がると思ったのに、いざ蓋を開けたら使う人がいないという状況は避けなければならないと思いました。

資料に4つの視点があって、これを全て実現できたら本当に素晴らしいと思うのですが、施設の新設とか改修の話題でたまに見聞きするのが、みるスポーツ、するスポーツ、どっちもやりたいとなって、どっちつかずになってしまうというパターンです。何でもできるというのは、実は誰にとってもちょっと使いづらいみたいなことがあります。完全に興行型の、いわゆるスマート・ベニュー、スポーツ施設を核としたまちづくりを行うということであれば、収益性が担保されない限り失敗しますので、そのあたりの計画をステークホルダーの方たちとも十分協議する必要があると思いました。

また、周辺エリアの開発、駅からのアクセス、あるいは試合のない日にどうするのか、周りに商業施設はあるのかとか駐車場はあるのかとか、そういった観点での一体的な検討が求められると思います。意見募集の結果、3000 件集まるのはかなり多いと思いますので、こちらもよく分析していただいて、検討を進めていただくと良いと思いました。

(事務局)

丁寧な対応ということは肝に銘じて、対話を重ねてまいりたいと思っております。

収益確保の部分でも、おっしゃるとおりだと思います。私たちの今置かれている財政状況から考えますと、施設をこのまま維持していくことは難しい状況で、2060 年までの間に全公共施設の 10%を削減していく必要があるという横浜市の方針が出ています。そのため、複合化や集約化をしていくことが必要です。何よりニーズに合わせて、質やコストをしっかりと考える必要があります。そういったことが大前提にある中で、今回この再整備にあたって、行政負担を減らすイコール収益性を高めていくことの必要性もありましたので、今回はあらゆるスポーツ興行にも耐えられるような施設にしていこうと思っています。また、役所が必要なものをそろえても、それが収益向上に繋が

るかといとなかなか難しいので、事業者提案を求める際には、実際運営する事業者が収益を高められるような仕組みを入れ、民間の発想や工夫がしっかりと反映できるような施設にしていかなければいけないと思っています。

周辺と一体的に、まちの魅力向上に繋げるということも、スタジアムアリーナ構想としてスポーツ庁が掲げています。横浜 BUNTAI もその一つの拠点として認められているように、周辺といかに調和して、スタジアムにイベントがなくても常に人が集って交流する拠点になっていくかが非常に不可欠な要素となっています。他の都市のスタジアムアリーナを見ても、徒歩で行ける距離に公共交通機関があるのはなかなかありません。そういった強みを生かせるように、アクセス改善や、地域経済の発展を牽引できるような施設にしていくこともコンセプトの一つになっていますので、今頂いたご意見を、計画の素案から原案、そして計画、さらには実際に整備する過程のそれぞれでしっかりと再点検しながら進めていきたいと思っています。

(大日方委員)

私もいろいろなニュースを見聞きし、関係者からもいろいろ話を聞いていますが、端的に言うとかみ合っていない気がしています。丁寧にコミュニケーションしていかないと、横浜にとって大きな損害になるのではないかと危惧しています。意見募集の結果、3000 件の意見があったのも驚きですが、その意見の精査とコミュニケーションを引き続きされていくということで、結論ありきではないはずなので、どういう形が持続可能なのかというところを、しっかりと探っていただきたいと思っています。

特にパラスポーツの聖地というような話も出ていましたが、そのように捉えている人たちもいるというのは、横浜にとって非常に誇らしいことです。引き続き、そのように言ってもらえるようにする必要があるのでないかと思っています。

先ほどからお話を聞いていると、経済的な視点でかなり厳しいというところは、なかなか説明し切れていないところがありました。まず、横浜が今長期で抱えているような課題、スポーツだけではなく、公共施設が非常に厳しい状況であることについては、丁寧な説明がもう少しあると良いのではと思いました。この前提がないと、経済を活性化するためとか、経済を回すために商業化に踏み切って、行政が考えなければいけない視点のところは切り捨てるように見えてしまいます。そうすると、全く実情とは違うものになっていると思いますので、そこはしっかりとステップを踏んだ上で説明していく必要があると思います。

それから、スポーツについても、サブプールは長水路のコースで、ここが活かされることであれば、その中で何ができるのか、地域の競技団体もそうなのですが、中央競技団体ともしっかりと話をさせていただいて、意見を聞いていただくのがいいと思います。

北山田駅からのアクセスの悪さは、最優先に考えないといけない問題なのではと思います。防災施設というのを考えていく中で、多くの人がアクセスできないところを防災には使わないと思います。まずそこをしっかりと全体の中で計画していただきたいと思いました。

横浜ビー・コルセアーズが本拠地としているということでしたが、素案の本文の 21 ページを見ると、横浜国際プール以外に横浜武道館や横浜 BUNTAI があって、横浜 BUNTAI も横浜武道館も B3リーグが使っていたり、フットサルが横浜武道館を使われています。横浜国際プールがスポーツ興行に耐え得る施設になったとしても、市場性からして、過剰になるのではないかというような印

象もなくはないです。収益性というところで、どのように考えていらっしゃるのか、お伺いできればと思います。

(事務局)

経済的な視点でかなり厳しいというところは、財政ビジョンや前提条件など、私たちが置かれているところが十分に説明できていないと改めて感じました。改めて丁寧にお話し合いをしていただければと思っています。

また、プール機能について、スポーツ施設として、プールも含めてどういうあり方がいいのか、市民意見募集の結果や、団体の方々との意見交換に向き合っていきたいと思っています。また、前段の意見交換の中では、直接運営されている団体の方々のお話を聞くことに注力していた関係もあって、NFであったり、主催者の方々にはなかなかお話ができないまま、この素案が出てきたこともありますので、いただいたご助言も踏まえながら、丁寧に対応していきたいと思っています。

北山田のアクセスについてですが、施設が出来た頃はまだグリーンラインができておらず、ブルーラインのセンター北駅からのバスがメインの動線でした。その後にグリーンラインが開通したので、施設をつくるときに駅があれば、考えられた部分もあったかもしれません。防災拠点であったり、機能を上げていくのに、アクセスできなければ意味がないことはおっしゃるとおりですので、しっかりと検討していきたいと思っています。

市場性のお話ですが、21 ページの表にあるように、今、横浜ビー・コルセアーズにホームアリーナとして使っていただいています。横浜 BUNTAI でいい吗と、今年始まったばかりですが、横浜ビー・コルセアーズが使っているのは4試合程度。横浜エクセレンスは使う予定だったのですが、プレーオフに出られなかったため、結局開催はありませんでした。今後使われる予定になっています。横浜武道館については3000席しかないため、B1の基準には至っていないのですが、主に横浜エクセレンスが使っています。横浜ビー・コルセアーズの会場がないときに横浜武道館を暫定的に使うというケースはありますが、今後はほとんどなくなるのではと思っています。

その上で市場性の問題で言いますと、今、横浜武道館については、平日も含めてアリーナの稼働率が9割を超えている状態です。競技団体の方からは、希望の時期に大会が取れないとの声をいただいています。また、横浜 BUNTAI については興行中心ということで、スポーツだけでなく音楽興行等も入っており、土日についてはなかなか予約が取りづらくなってきている状態です。

特に市民活動の部分で言うと、競争倍率が非常に高いという状況を考えると、今回、通年フロア化になることによって、特に夏の部活動の大会や、今は横浜市内で大会ができずに市外で大会をやっている団体の開催が期待できます。また、特にここ最近暑くなってきていることもあり、幼稚園や小学校の運動会をこういったスポーツ施設の中で実施されているということで、現に横浜武道館や横浜 BUNTAI でも、運動会や、部活動の日々の活動をやる場所も出ています。あとは、スポーツセンターの貸切りの借り上げの競争倍率も本当に高く、各競技団体がなかなか取れないこともあります。体育館全体に対するニーズというのは、まだまだ横浜市内に足りている状況ではないので、日頃からスポーツができる場をつくるという点では、ニーズはあるのではと思います。興行としてお金を取るのか、市民活動ということで受益者負担の考え方で適正な料金を取っていくのか、そのあたりのバランスをどうしていくのかは、今後考えなければいけないと思います。

が、体育館のニーズは非常にあるのではと判断しています。

(大日方委員)

確かに体育館が足りないというところはよく理解できましたが、資料の中だけでは読み解けないものもあるので、そういうところも丁寧に説明を入れていくということが必要だと思います。横浜武道館は“する”施設、横浜 BUNTAI はスポーツ以外でも使える興行の施設ということ、どのくらい横浜市民が理解しているのか、そして、横浜国際プールは何をする場なのだろうと。今聞いていると興行施設になるかもしれないし、市民の運動、学校の運動会とかに使えるのかもしれない。それはよくよく考えますとのことですが、その考えがあって今回のメインプールについては転換してこうというものなので、ここはこういう施設なんですという基本的な考えが見えないと、なかなか話が進みにくいのではと感じました。部活動のところとかは、すごく地域の皆さんに関心が高いのは理解できるので、その部分を整理していかれるともう少し分かりやすいと思います。

横浜国際プールという名前なのですが、プールではなくアリーナですよ。特に関係者にとってみると、プールがアリーナになるというのは全く違うものになるというようなイメージを持たれますし、名前が変わるのであれば、そこは丁寧に説明をしてください。今後はプールもあるけれどもアリーナもあるという、総合運動場のようなネーミングを考えたほうが良いと思いました。

(事務局)

基本コンセプトはスポーツを通じた次世代を育む拠点という形になりますので、基本的には地域の方が日々集い、活動できる拠点を目指しつつ、その一方で、収益、その分の市民負担を減らしていくためにも、興行にも対応するという形になっていくと思います。ただ、中途半端にならないよう、そのバランスは、ご指摘も踏まえながら、原案にしていって、皆さんに伝わりやすく整理できるようにしていきたいと思っています。

(山口会長)

PFI事業に関しては、確かに行政の財政的な一時金の支払いはありませんが、PFI事業者はファイナンスを組みます。ですから、当然、事業そのものにその事業者の金利がかかってくるということでもありますので、実際に財政的な平準化はできますが、その辺の観点もご留意されたほうがいいのではないかと思います。

(石黒委員)

本編の 16 ページ等で、床転換の話が出ています。今のプールの床転換の技術的な設備は多分、かなり前のものかと思うのですが、今やろうとするのもっとコストが安くなったり、そのようなお話は何か出ていたりするのでしょうか。

(事務局)

14 ページ以降が2回にわたって行いましたサウンディングの結果です。私たちも今の事業者にコストが削減できないかお話ししたのですが、手法としては、簡単に言うと、今ある国際プールのプール面に、足場を組んで平らな板を敷くというやり方なので、転換の機械よりも、足場をつくっていく人件費がコストの大部分を占めており、いわゆる技術的な部分ではなかなか改善できないというお話でした。サウンディングをする中で、どうしたらコストが抑えられますかと聞いた結果は、1 回目のサウンディングで1社から、床転換を継続したほうが良いというようなご提案がありました。ただ、現実的に、15 ページの管理運営サービスのところを見ていただければと思いますが、床転換

	<p>費用の削減については継続して模索したいということで、この提案者も、現状の施設を生かしつつリノベーションしたとしても、具体的な経費削減策は提案できないとのことでした。同じく16ページが2回目のサウンディングの結果です。この中で、床転換を継続したほうが良いというのは1社いらっしやいました。この時点でも具体的な費用削減策はなく、引き続き模索しますというようなお話で、ほかの民間企業の方に聞いてもなかなか具体的なご提案を頂けなかったというのが実情です。</p> <p>(石黒委員)</p> <p>例えば北海道のエスコンフィールドの天井の開閉は、実はそんなにコストがかからないという話があったり、もしそういう技術があるのに、ないと思っているなら、後から大変なことになるかと思ってお伺いさせていただいた次第です。技術的なところにはなりますが、そのあたりも丁寧な調査をして進めていただけるといいのかなと思いました。</p> <p><u>その他 第26期横浜市スポーツ推進審議会審議スケジュール</u></p> <p><資料に基づき事務局から説明></p> <p><ご意見なし></p>
閉 会	閉会
資 料 ・ 特記事項	<p><配付資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・席次表 ・第3回会議議事録 ・【資料1】令和5年度横浜市スポーツ推進計画の進捗状況 ・【資料1 別紙1】第3期横浜市スポーツ推進計画の指標と目標値の達成状況 ・【資料1 別紙2】R5 大規模スポーツイベント等開催支援事業 ・【資料1 別紙3】第3期横浜市スポーツ推進計画の進捗状況【令和5年度実績】 ・【参考資料】るるぶ特別編集「スポーツ観戦×横浜観光」 ・【参考資料】横浜国際プール再整備事業計画(素案) ・【参考資料】横浜国際プール再整備事業計画(素案)概要版 ・【資料2】第26期横浜市スポーツ推進審議会の審議スケジュール